



花園大学

教員 おすすめ図書

2019 APRIL v.8.0 新入生歓迎号

花園大学の先生が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。コメントを付けて、図書館1階の「おすすめ図書コーナー」に配置してあります。貸し出しすることもできます。

花園大学情報センター（図書館）



心理学って何だろうか? : 四千人の調査から見える期待と現実

日本心理学会監修 楠見孝編

誠信書房

2018.2

第21代 学長

丹治光浩

<請求記号> <心理学の卒業論文は社会で役に立つのか>

140/Ku 92

日本心理学会が全国4000人を対象に行った調査をもとに、心理学とは何かについて分かりやすく解説した本です。「日常生活に役立てる心理学」「学校の先生に使ってほしい心理学」「心理学者は誰の心も見透かせるのか」など、初学者にとって非常に興味深い内容になっています。新入生のみなさんに是非読んでいただきたい本です。



生命とは何か：物理的にみた生細胞

E.シュレーディンガー著 岡小天, 鎮目恭夫 訳

岩波書店

2008.5

文学部 仏教学科

佐々木閑

<請求記号>

岩波文庫/青
33-946-1

量子力学の波動方程式を発見し、ノーベル物理学賞を受賞した著者が、後年、専門領域の物理学から一歩距離を置いて、生命というものの本質について考察した本。まだDNAの存在さえ想定されていなかった時点で、「生命の本質は、なんらかの、分子擬似結晶構造内に蓄えられた情報だ」と見抜いている。物理学をベースにして、論理的思考を徹底させていけば、生命の本質までも見通すことができるということを世に知らしめた「知の金字塔」。「世界を正しく見る」という禅の本義を、科学の世界で実践するとこのような本になる、という実例である。誰にでも理解できるやさしい言葉で書かれているので、是非一読をお勧めする。



十牛図：禪の悟りにいたる十のプロセス

山田無文著

禅文化研究所

1982.7

文学部 仏教学科

小川太龍

<請求記号>

189.346/Y 19

本学の学長を長らく務められた山田無文老師による『十牛図』の提唱(説法)録。『十牛図』とは、禅の修行を牛と牛を追う牧童に喩え10枚の絵と詩で表現したもの。昭和28年当時の提唱を活字にしたものであるが、65年以上の時代の隔たりを全く感じさせない。老師の生き活きとした言葉から、臨済禅の修行の楽しさが伝わり、さらに読後には箇々の人生の指針が湧き出ることでしょう。5年、10年、20年後に読み返せばその度に新しい発見がある。



自伝抄 1-4

読売新聞社編

読売新聞社

1977.3-1978.4

文学部 日本史学科

菅修一

<請求記号>

281.08/J48/1,2,3,4

昭和50年代前半の読売新聞の文化欄に連載された著名作家の自伝の数々。当時は、明治・大正生まれの作家が多く活躍していて、彼らの生きてきた時代や暮らしを垣間見ることができる。

松本清張の自伝「雑草の実」は秀逸。戦後を代表する作家であるが、作家になるまでの氏は実につつましい庶民の暮らしを生きていた。悶々とした日々。家族を養っていく責任感。戦争に突き進み、そして敗れた日本という国の中で氏の生活も翻弄されていた。

執筆者の思いが生々しい各自伝は、読み応えがある。



欧米漫遊雑記：現代語訳

鎌田栄吉著 館川伸子訳

博文館新社

2014.3

文学部 日本史学科

松田敬之

<請求記号>

293.09/Ka 31

本書は衆議院議員、慶應義塾塾長、貴族院勅選議員、文部大臣、枢密顧問官等を歴任した政治家・教育者である鎌田栄吉が明治29年(1896)3月から1年9か月の間、欧米を巡回した際の見聞録です。フランス、イギリス、スコットランド、ベルギー、オランダ、ドイツ、ロシア、オーストリア・ハンガリー、ブルガリア、トルコ、ギリシャ、エジプト、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル、アメリカと全15章からなる書籍ですが、19世紀末の各国の国情について、日本の知識人の目にはどのように映ったのかが記されています。読みながら、この当時の欧米諸国を巡り歩いた気になれるでしょう。

なお、本書は『欧米漫遊雑記』の書名で明治32年(1899)6月に博文館から刊行されましたが、昭和62年(1987)12月にゆまに書房の明治欧米見聞録集成*1にも収録され、本学の図書館にも所蔵しています。また、国立国会図書館デジタルコレクション*2でもネット公開しています。原本を読みたい人はこちらもお薦めします。

* 1: <293.09/Me 25/20>

『明治欧米見聞録集成 第20巻』(ゆまに書房, 1987.12)

* 2: 『欧米漫遊雑記』蒲田栄吉著(博文館, 1899.6)

国立国会図書館デジタルコレクション
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/760971>



日本の同時代小説

斎藤美奈子著

岩波書店

2018.11

文学部 日本文学科

高橋啓太

<請求記号>

岩波新書/1746

近代文学史といえば明治～昭和前期が中心で、それ以降の時代の文学史はあまり書かれていません。本書は1960年代から現在までの各時代の文脈をしっかりと踏まえ、どの時代にどのような文学が生まれて読まれたのかについて解説しています。読みやすい現代文学史であると同時に社会史としての側面も持ち合わせており、これからの時代を考えるための示唆を与えてくれる一冊です。



リラックスのレッスン：緊張しない・あがらないために

鴻上尚史著

大和書房

2019.2

文学部 日本文学科

秦美香子

<請求記号>

361.454/Ko 41

授業で発表をしないといけないとき、心臓がばくばくして、何を言ったらいいかわからなくなってしまう。グループワークがある授業は、なるべくとらないようにしている。そんな人に、ぜひ読んでほしいです。なぜ、そんなにあがってしまうのか？ どうすれば、緊張しすぎずに発表したり、グループワークで発言したりできるのか？ そんなヒントがたくさんあって、読むだけでも、ちょっと安心できますよ。



わたしを離さないで

カズオ・イシグロ著 土屋政雄訳

早川書房

2008.8

社会福祉学部 社会福祉学科 福富昌城

<請求記号>

ハヤカワepi文庫/イ-1-6-51

カズオイシグロの6本目の長編小説。小説の設定はSF。しかし、ハリウッド映画のような見え透いたカタルシスなどない。臓器提供のために創り出されたクローンである子ども達がヘールシャムという寄宿学校で過ごす幼年時代から、提供者としての運命に晒されていくその後を淡々と、静謐な筆致で描いている。ここで描かれた世界を、既の実現に近い悪夢と捉えて、そうした世界を静かに告発しようとしているとも読むことができるし、自分ではどうにもならない過酷な運命に直面したときに、人どのように生きるのかを彼らの内面世界から感じ取ることもできる。

作者のカズオイシグロは「どんな人にも大切な記憶がある。(中略)〈They Can't Take That Away From Me〉というジャズの歌にもあるように、決して奪われることのない、自分だけの過去の思い出がある。わたしはこの作品でも、そこを表現したかった」とあるインタビューで述べている。社会から軽んじられている存在であっても、その人のなかにある〈奪われることのないもの〉の存在を大切に扱おうとする、そういうものにわたしはなりたい。



臨床脳科学：心から見た脳

加藤忠史著

岩崎学術出版社

2018.6

社会福祉学部 臨床心理学科 小海宏之

<請求記号>

493.7/Ka 86

脳科学のこれまでの成書は難解なものが多かったが、本書は、「第Ⅰ部 臨床心理と脳」、「第Ⅱ部 病気からわかる脳の働き」、「第Ⅲ部 精神疾患と脳」の構成で理解し易く概説されており、メンタルヘルス専門職者が日常の臨床で感じている心のメカニズムの疑問に、第一線の脳科学研究をふまえて答えてくれる良書であろう。なお、メンタルヘルスの新しい国家資格として公認心理師が法制化され、大学学部での養成科目として「神経・生理心理学」が入ったことは大切に喜ばしいことと思っているが、本書はまさに今後の公認心理師を目指す学部生・大学院生のみならず、臨床現場で活躍されている方々の必読書であり、本書で得られる知識は特に心理アセスメントのなかで活かせようと考え。



昔話法廷 [Season1]-Season3

NHK Eテレ「昔話法廷」制作班編

金の星社

2016.8-2018.6

社会福祉学部 臨床心理学科 橋本和明

<請求記号>

913/N 69/1,2,3

裁判員裁判は国民から選ばれた裁判員と裁判官が殺人など重大事件を裁きます。そのため、司法はわれわれにとっては身近なものとなってきました。この本はそんなことを踏まえ、より多くの人に裁判に関心を持ってもらおうとNHKで制作されたものを書籍化したものです。馴染みのある昔話を題材に裁判が繰り広げられますが、みなさんが裁判員だったら、この昔話の事件をどう裁くか考えながら読まれると面白いですよ。



「また、必ず会おう」と誰もが言った。：
偶然出会った、たくさんの必然

喜多川泰著

サンマーク出版 2010.11

社会福祉学部 児童福祉学科 井上憲雄

<請求記号>

913.6/Ki 63

一人の少年がひょんなことから小さなうそをつき、そのうそから一人でディズニーランドへいく羽目になる。ところがその帰り、不運が重なり最終日の飛行機に乗り遅れてしまう。所持金は3400円。「どうして熊本まで帰ればいいのか…」と途方にくれる彼に声をかけたのは空港内の土産物売り場で働く一人のおばさんだった。この偶然の出会いが彼の成長の旅の始まりになる。

自分の日常を見直し、生き方を考えさせてくれる一冊。



食事と作法

小川直之編 (『日本の食文化 1』)

吉川弘文館 2018.12

社会福祉学部 児童福祉学科 千田眞喜子

<請求記号>

383.81/N 71/1

食は生きるために必要です。食事には作法と決まり事があります。人生の儀礼と日常の食の社会的な意味を、この本を読んで学んでほしいと思います。この本をきっかけに、和食の良さもぜひ見直してみましよう！



マンガ対訳本から学ぶ日英対照英語表現研究

衣笠忠司著

開拓社

2012.1

文学部 外国語教育課程 有吉淳一郎

<請求記号>

837.8/Ki 47

みなさんはこれまで英語を勉強してきたわけですが、日常的に使われる表現こそ身につけたいものですよ。本書は、日本のマンガの本の英語対訳本をもとに、日本語での表現が英語ではどのように表現されるのかを解説したものです。

一例を挙げますと、日本語の「助かった」は英語では“You saved me.”と言います。主語が日本語では「私」なのに対し（明示はされていませんが）、英語では「あなた」であり、「あなたは私を助けた」式に言うのです。もちろん“I was saved.”もオツケーですが、“You saved me.”の方が英語らしいのです。単に単語を置き換えて作文すればよい、というわけではないことが分かります。すぐに使いたくなるような言い回しが満載。お薦めです。



坐禅ガール

田ロランディ著

祥伝社

2017.1

文学部 外国語教育課程 衣川賢次

<請求記号>

祥伝社文庫/た
-36-1

悩める30代の美女と40代後半の女流作家が出逢い、アメリカ人の女性禅マスターの坐禅に導かれ、新しい人生の探究に入るという小説。花園大学に入った諸君は、何の取り得もないのに失望するかもしれないが、ここには他の大学にないものが、ひとつだけある。それは昼休みに禅堂が開放されていて、自由に坐禅ができることである。週に一日でもいい、その日は昼食をとらず、体調を整えて、12時30分から20分間だが、坐ると身体も心も落ちついて、よい発想が生まれる。坐禅の経験ができれば、藤田一照『現代坐禅講義』（角川文庫、2019）*1を読むとよい。横田南嶺老師も「坐禅って楽しいと、気付かせてもらった書」だと推薦されている。附録の整体、気功、ヨーガ師らとの対談が特に面白く、ますます探究心に駆られる。

* 1: <角川ソフィア文庫/H-126-1>
『現代坐禅講義: 只管打坐への道』藤田一照著
(KADOKAWA, 2019.1)



サンタクロースっているんでしょうか？
改訂版

[text by Francis P. Church] 中村妙子訳
東逸子絵

偕成社

1986.10

文学部 教職課程

中善則

<請求記号>

386/C 67

この絵本は、今から、120年ほど前に、アメリカで「サンタクロースって本当にいるの?」という8歳の少女の質問に、ある新聞社が「社説」で答えた文章を訳したものです。あなたなら、なんて答えますか? ぜひ、愛情のこもった、味わい深い返事を味わってください。

児童福祉学科の学生なら、将来、子どもたちに読み聞かせてほしいな。中高の先生なら、この問いにどう答えるか、みんなで語り合う授業がつかれるかもね。教職を目指す新入生の皆さんに、そんな日が来ることを心から祈って、この本を紹介します。